

テーマ2 いつまでも安心して暮らせる地域社会づくり

【現状と課題】

1 進展する高齢化と社会情勢の変化

(1) 栄区の開発と高齢化の推移

栄区は、昭和30年代後半から40年代にかけて、急速に都市化が進みました。栄区が分区した昭和61年当時は、高齢化率が5.7%と若い世代中心の区でした。その後、大きな人口流入もなく成熟化が進む中、高齢化も徐々に進みました。

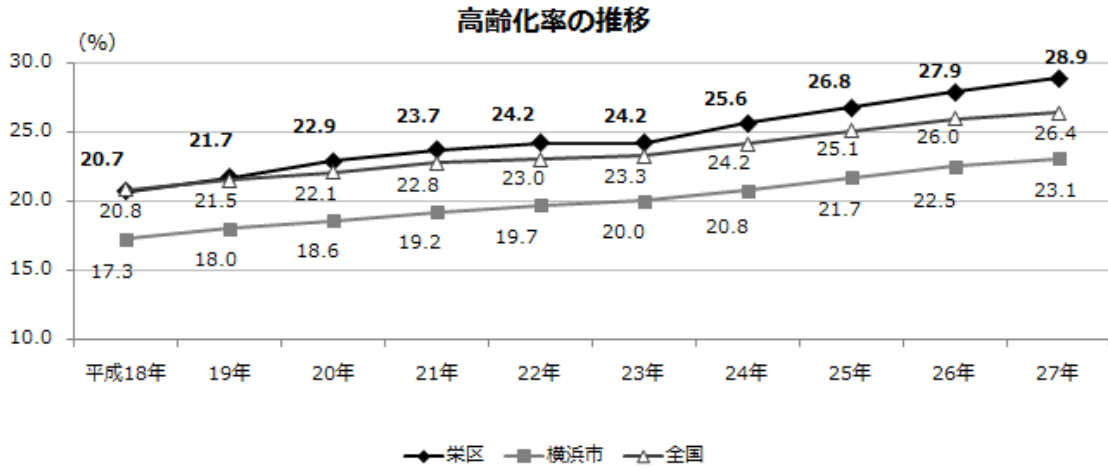
平成27年10月には28.9%になり、今後団塊の世代の方がすべて75歳以上となる平成37年(2025年)には、推計では31.5%になります。なお、後期高齢者の割合は21.0%となります。

(2) 高齢世帯の状況

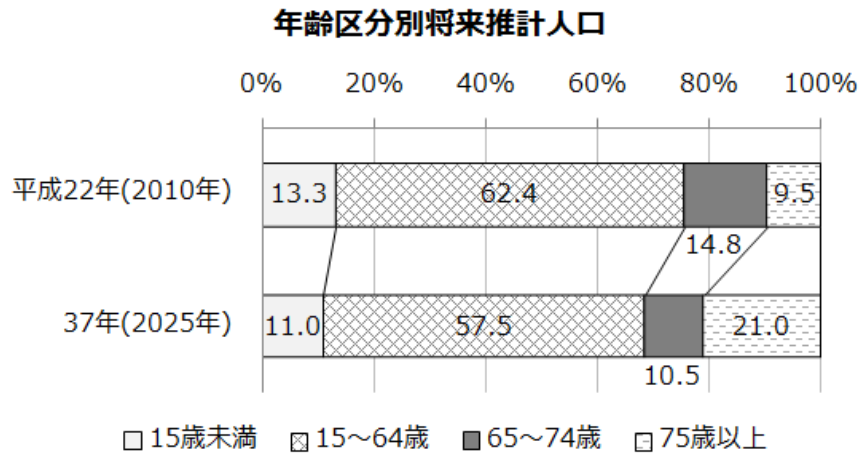
高齢単身又は高齢夫婦のみの世帯は、平成22年10月1日現在、全世帯の23.5%あり、平成17年と比較して増加しています。特に、高齢単身世帯の割合が増えており、今後、見守り等の支援が必要になる可能性が高まっています。

(3) 健康状態

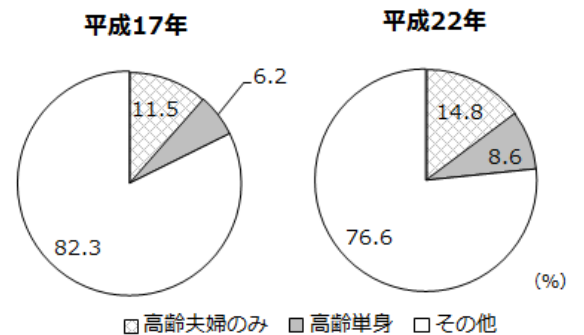
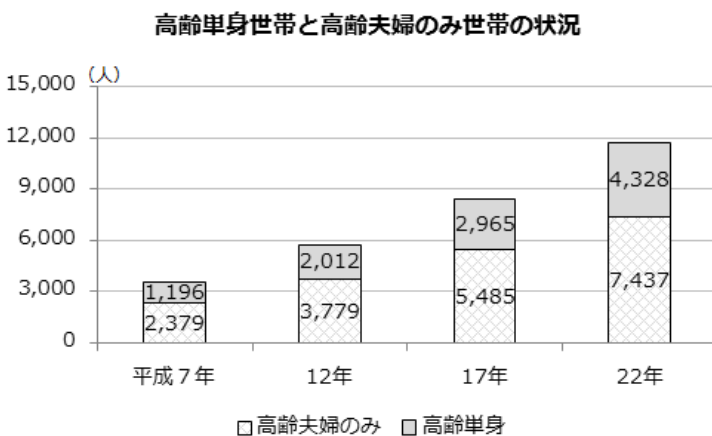
栄区は、介護保険の要介護認定率は14.4%（平成28年1月末現在）と低く、比較的元気な高齢者が多い区です。これは、高齢者のうち前期高齢者の占める割合が61.0%（平成22年10月1日現在）と高く、社会参加等、活発に活動している方が多いことが要因と考えられます。しかし、要介護認定率は75歳を超えると急激に高くなるため、今後は、介護が必要になる方が急増すると予測されます。



出典：全国値 人口推計（各年10月1日現在）
横浜市 登録者数（各年9月末現在）



出典：将来推計人口



出典：国勢調査

2 地域活動の状況

(1) 活発な高齢者の社会参加活動

栄区は、自治会町内会、各種団体、ボランティア活動が熱心です。これらの活動の担い手は、高齢者が主体となっています。また、シニアクラブの構成員は区内全体で約 6,000 人おり、生きがい活動、友愛訪問活動などの重要な担い手となっています。

(2) 高齢者を支える地域活動

地域では、高齢者を支える様々な活動が行われています。民生委員の方は、ひとり暮らし高齢者の見守りや地域情報の提供等を行っています。さらに、自治会町内会は、民生委員等と連携し、定期的に会食するサロンなどを進めています。また、地区社協等が毎年敬老の集いを盛大に開催する地域も多く、“敬老意識の醸成”とともに、小中学生との交流など活発な世代間交流が行われています。

(3) 健康づくり・介護予防の取組

栄区では、各地域で、高齢者の方々がウォーキングなど多くの運動やスポーツに取り組んでいます。また、区役所や地域ケアプラザなどで開催する健康講座へも、多くの参加があります。

横浜市全体で、ウォーキングポイント事業を実施していますが、栄区民の参加率は最も高くなっています（平成 27 年 12 月現在）。また、自治会ごとでの認知症予防の取組である元気づくりステーションも、区内では 13 ケ所（平成 28 年 2 月現在）あり、増加傾向にあります。

このように、高齢者の方々の健康意識は高く、健康志向のライフスタイルが普及していると考えられます。

3 今後の高齢化と地域福祉

(1) 介護保険制度と地域福祉

今後、要介護度の高い高齢者の増加、介護施設整備の不足、病院ベッド数の不足など、そして、何より高齢者自身の安心感から、住み慣れた地域で引き続き暮らしていける環境づくりが、益々重要になります。そのため、介護保険制度として、地域における様々な支援への充実がはかられることとなっています。また、それを支える地域においても、ネットワークの強化など地域福祉活動の一層の活性化に努める必要があります。

(2) 在宅医療

栄区は、診療所が決して多くはなく、訪問診療など在宅医療の充実は大きな課題となっています。一方、平成 27 年 11 月には、栄区在宅医療相談室が開設されました。限られた医療資源と訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどとの連携、さらに、栄共済病院の支援などをいただきながら、在宅医療の広がりにつなげていく必要があります。

(3) NPO 法人などによる生活支援

栄区では、NPO 法人や実行委員会などの体制で、専門性を有するスタッフが、地域のきめ細かな課題に対処しているケースがあります。具体的には、配食サービスと見守り、家事・庭の手入れ業務、買い物支援と居場所づくりなどに取り組んでいます。これらの活動は地域の課題解決にとっても有効であり、今後とも、各地区で広めていくことが求められています。

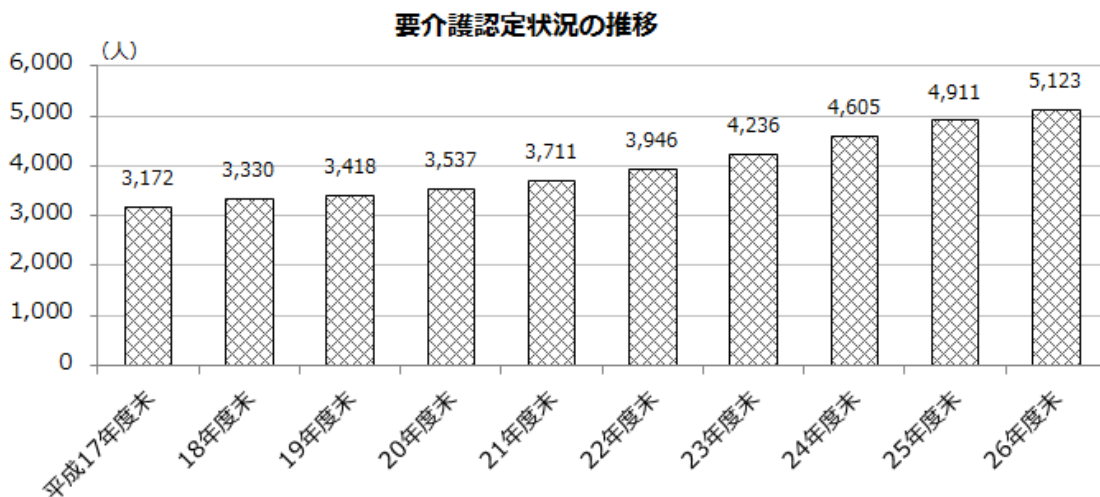
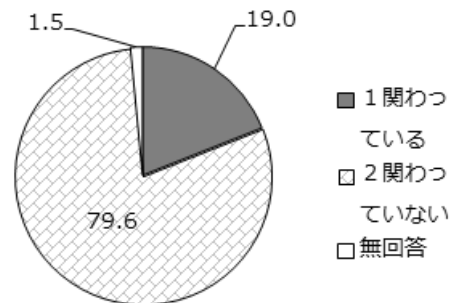
また、民間事業者も、宅配事業、配食事業、警備会社による見守りなど、様々な分野で福祉サービス事業に取り組んでいます。これらの事業の情報を把握し、適切な支援につなげていくことも大切です。

● 関わっている地域活動について（平成 26 年 区民意識調査より）

問18 区内の各地域では、誰もが安心して暮らせるために、身近な地域での見守り・支えあいや健康づくりの取組、子どもから高齢者まで多世代の方が交流できる場づくりなど、自治会町内会や各種団体を中心に、様々な福祉保健活動が行われています。

あなたは現在、このような地域の活動に関わっていますか。（○は1つ）：n = 744

項目	1 関わっている	2 関わっていない	無回答	合計
回答数	141	592	11	744
割合	19.0	79.6	1.5	100.0



出典：健康福祉局介護保険課

4 多様化・複雑化するニーズとリスク

(1) 介護を行っている家族の支援

今後、要介護者の増加、また、核家族化、高齢者のみ世帯の増加により、家族による介護の負担が大きな課題となります。また、介護のために離職せざるを得ない家庭は、経済力の低下により介護による貧困も招きかねません。介護を行っている家族への多面的な支援が、これからの重要な課題です。

(2) 認知症対策

平成 26 年 9 月現在要介護認定を受けている認知症の高齢者は、区内で 2,500 人おり、区内高齢者の約 7% になっています。今後、認知症の高齢者は確実に増えていくことが予想され、予防と早期発見、そしてケア（介護）の両面からの対策が必要になってきます。

(3) 孤立予防対策

高齢者のいる世帯の中で、単身世帯や高齢者のみ世帯の増加という生活形態に加え、認知症や貧困など様々な要因が重なり、地域から孤立しがちな高齢者の方が増えています。これらの状態を放置すると、望まない“孤立死”を招くことにつながるため、日頃からの地域での見守りが求められます。

(4) 虐待予防や成年後見などの権利擁護対策

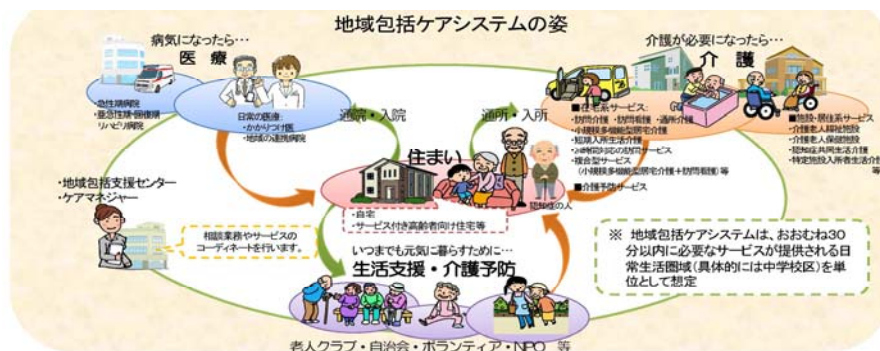
介護負担や家族関係の不調、経済的困窮などにより高齢者が虐待されている事例や認知症により判断能力が落ちてしまい自らの権利を適切に主張できない事例も増えています。虐待に関する啓発活動と適切な支援、権利擁護事業や成年後見制度に関する制度の適切な運営支援と市民後見人の育成が求められています。

コラム 地域包括ケアシステム

横浜市では、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025（平成 37）年には、要介護認定者が現在の約 1.5 倍に、在宅医療対象者が約 1.7 倍になると見込まれています。

こうした状況に対応するため、横浜市では、2025 年までに、重度な要介護状態となっても高齢者が住み慣れた地域で自分らしく日常生活ができるよう、医療・介護・予防・生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を日常生活圏域（概ね中学校区程度のエリア）ごとに構築していきます。

各圏域で地域の現状や課題を把握し、住民組織や保健・医療・福祉等の専門機関、民間企業の連携により、地域づくりや資源開発を行いながら課題解決を図ります。



コラム 若年認知症について

認知症は、一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」とされます。

若年性認知症は働き盛りの世代ですから、ご本人だけでなく、ご家族の生活への影響が大きいにもかかわらず、その実態は明らかでなく、支援も十分ではありません。

ご本人や配偶者が現役世代であり、病気のために仕事に支障がでたり、仕事をやめることになったりと経済的に困難な状況になってしまいます。また、子どもが成人していない場合には親の病気が与える心理的影響が大きく、教育、就職、結婚などの人生設計が変わることになりかねません。さらにご本人や配偶者の親の介護が重なることもあり、介護の負担が大きくなります。

このように若年性認知症は社会的にも大きな問題ですが、企業や医療・介護の現場でもまだ認識が不足している現状です。(※)

栄区では、6館の地域ケアプラザが共同で、若年認知症栄区をつどい「笑風の会」を開催しています。ご本人とご家族が集い、日ごろの思いや困りごと等をお茶を飲みながら話し合う等し、学びを深めています。

(※) 出典：社会福祉法人 仁至会認知症介護研究・

研修大府センター若年認知症コールセンターより

コラム ヒートショックについて

急激な温度の変化によって血圧が上下に大きく変動することをきっかけにして起こる健康被害です。例えば失神したら、心筋梗塞や不整脈、脳こうそく等を起こすこともあります。高齢者や生活習慣病の方は血圧変化をきたしやすく、特に注意が必要です。

栄区では、セーフコミュニティ認証都市として、ヒートショック予防対策の啓発に取り組んでいます。民生委員、保健活動推進員、シニアクラブの方々によるプロジェクトを立ち上げ、地域や各団体の集まり等で説明し、安全安心なまちづくりに取り組んでいます。



【目指すべき地域社会のあり方】

1 重層的な地域ケア(見守り)

これからの高齢社会においては、介護や医療が必要な状態になっても、基本的には地域コミュニティの中で安心して暮らしていただけるような体制が必要です。

栄区では、各地区の特性をふまえた地域ケアを推進していきます。隣近所や協力事業者などによるゆるやかな見守り、ややリスクのある世帯への、地域の団体による見守り、リスクの高い世帯への、専門職が医療・介護等と連携して行う専門的な見守りがあります。これらが地域において重層的に行われている地域ケアを目指します。

また、日ごろから認知症の方を受け入れやすい地域環境や、家族支援などに配慮あるかかわりの視点も大切になります。

【地域社会の実現に向けて取り組むべき施策】

自 助	知る
	<p>①住民が高齢化の現状などを知る 住民一人一人にとって、地域の高齢化の現状や将来の動向、地域ケアなどの情報は重要で、自分のこととして考えていくことが必要となっています。行政、地域ケアプラザなどの広報紙の活用その他、地区社協や自治会町内会などを通じて、地区別計画などを説明し認識を高めていきます。また、認知症の理解や成年後見制度の活用、介護を行っている家族の支援などの情報を共有し、地域としての取組につなげていきます。</p> <p>②自治会町内会の見守りスキルの向上 自治会町内会を中心とした地域ケアを充実させていくためには、孤立予防や虐待予防の視点を持った見守りの専門的なノウハウ(見守りのチェックポイント)の習得が大切です。地域の民生委員と連携し、区役所・区社協・地域ケアプラザにおいて、見守りスキルアップ講座などを実施します。</p>
共 助	参加・行動する
	<p>①隣近所の見守りが基本、防災をきっかけに 地域での見守りが暮らしやすさの原点であり、日頃から隣近所について確認するような配慮が大切です。防災の取組などをきっかけに、日頃からの関係づくりが地域で根付くように働きかけていきます。</p> <p>②サロンづくり 自治会町内会や福祉関係者による昼食会などを開催し、地域の高齢者が外に出る機会、顔を合わせる機会をつくります。栄区では、すでに多くの自治会町内会でサロンが開催されていますが、より日常的な集まりになるように、頻度を増やし見守り機能を強化します。</p> <p>③見守りの強化としての体制づくりの検討 栄区では、見守りとしての戸別訪問は、現段階では決して多いとは言えません。マンパワー不足などの課題もありますが、自治会町内会などを主体として戸別訪問と安否確認の体制づくりの検討を進めます。</p>

共 助	<p>④民間事業の導入 配食や宅配、警備会社など民間企業による安否確認も行われています。今後、地域による見守りの連携についても検討します。</p> <p>⑤診療所との連携、地域団体と診療所のタイアップ 介護と医療の連携は、個々の問題にとどまらず、地域全体の課題としてとらえる視点が必要です。在宅医療推進に向けて、自治会町内会などの地域団体は、区医師会、区役所、地域ケアプラザとタイアップしながら、診療所との連携強化を推進していきます。</p>
	つながる
	<p>①NPO法人などの見守り活動団体の設立に向けて 日頃からの見守りとともに、専門性のある見守り活動を行えるNPO法人など、地域に根差した活動団体の設立を支援します。その団体を中心とし、医療機関や専門機関との連携が強化されることにより、地域ケアの充実につなげます。</p> <p>②介護を行っている家族の支援 介護を行っている家族の集まりを、自治会館や地域ケアプラザなど身近な場所で開催します。地域ケアプラザや空き家活用などにより、認知症カフェのような認知症の方や介護家族の方が集まる場を設けます。</p>

コラム 重層的な見守りの構築

望まない孤立死や生活の質の低下を防ぐため、「見守りのポイント」を普及させながら重層的な見守り体制を整備します。

【第1層】地域コミュニティや事業者による緩ゆるやかな見守り

→ 民間事業者との連携を強めるとともに地域住民同士による見守りを広げていきます。

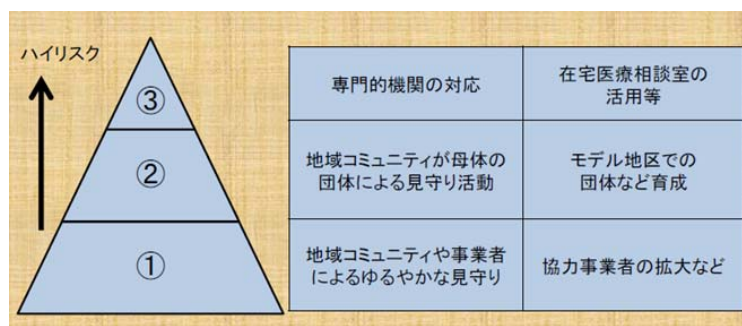
【第2層】地域コミュニティの団体による見守り

→ 民生委員等の見守り団体への研修会を行いながら情報交換を促進します。

【第3層】専門機関による見守り

→地域ケアプラザやケアマネジャーによる見守りを展開します。

<栄区で考える地域包括ケアシステム（見守り体系図）>



【目指すべき地域社会のあり方】

2 意欲と能力の発揮できる地域社会

シニア世代の意欲・体力などは個人差がありますが、活躍したいという意欲のある方が活躍できる環境づくりは重要です。また、様々な地域課題の解決において、シニア世代の方のマンパワーやノウハウが大切です。子育て支援や青少年の見守りなど、シニア世代の方ならではの役割が求められています。生きがいや自己実現を可能とする地域社会を目指します。

【地域社会の実現に向けて取り組むべき施策】

自 助	知る
	<p>①自己啓発の機会づくり</p> <p>シニア世代の方々へ、自己啓発や社会活動の参加を勧めていけるように、地区センターや図書館、地域ケアプラザ、老人福祉センター翠風荘などにおける講座や各種活動の機会を増やしていきます。</p>
共 助	参加・行動する
	<p>①情報ストックづくりとコーディネート</p> <p>地域では、多くの分野でボランティアなどの担い手が不足しています。高齢化の進む栄区では、活力のあるシニア世代の参加が期待されていますが、社会参加を望んでいるシニア世代の存在と、担い手を求める団体の存在などが、必ずしも明確になっていない現状があります。この情報をストックしコーディネートできるようなしくみを区役所、区社協、地域ケアプラザで進めていきます。</p> <p>②さまざまな地域活動</p> <p>栄区では、シニアクラブなどの地域活動が活発で、今後はシニア世代の出場所及び生き甲斐の場としても期待されています。また、福祉団体などが連携した見守りなどの活動や自治会町内会とタイアップした活動なども期待されています。これからも一層の活性化が期待されます。</p>
共 助	つながる
	<p>①シニア世代のための拠点の在り方</p> <p>老人福祉センター翠風荘は、区役所・区社協・地域ケアプラザ等と連携し、シニア世代向けの様々な情報発信の場としての役割強化をはかります。翠風荘を拠点として、シニア世代のネットワークづくりにつなげていきます。</p> <p>②高齢者を敬う風土づくり</p> <p>栄区では、各地域で「敬老の集い」等の行事が行われています。これからも、地域ぐるみで高齢者を大切にする風土づくりを広げていきます。</p>

【目指すべき地域社会のあり方】

3 介護予防に取り組む地域社会

介護予防（認知症予防など）は、個々人の取組、地域の取組等様々ありますが、今後は、若年期から高齢期を想定した関わりが必要です。元気づくりステーション、ウォーキング、健康サークルなど、自分らしい介護予防に参加できる地域社会を目指します。

【地域社会の実現に向けて取り組むべき施策】

自 助	知る
	<p>①健康、介護予防の情報発信</p> <p>健康への配慮や介護予防への関心が高いシニア層では、ネット環境に慣れている方も多く、シニア向けの健康情報や介護予防情報などを区として積極的に発信していきます。健康への取組は、中年期から取り組むことが大切なことも多く、「シニアライフノート」などを用いて幅広い層に向けた情報発信もしていきます。またセーフコミュニティの取組として、転倒予防、ヒートショック予防の対策を進めていきます。</p>
共 助	参加・行動する
	<p>①相談機能の充実</p> <p>区役所、地域ケアプラザなど、関係機関が連携し、高齢者の健康や介護予防の相談機能を充実させます。また、情報を共有することにより、地域としての健康づくりの動きにつなげていきます。</p> <p>②認知症予防のプログラム</p> <p>認知症は、初期の対応によりその後の影響が大きく異なります。認知症予防の講座やプログラム等を地域ケアプラザなど身近な場所で開催するほか、区役所は地域ケアプラザと連携し、中心となりながら施策を総合的に推進します。</p>
助	つながる
	<p>①地域コミュニティによる介護予防活動</p> <p>認知症予防の一環として、自治会館など身近な場所を活用した元気づくりステーションが展開されています。単なる介護予防にとどまらず、交流を通じたコミュニティ活動の活性化にもなり、生きがいづくりにつながります。今後は、自治会館の他、空き家などの身近な場を活用し、地域の方々が主体となった認知症予防の運動などを広げます。</p> <p>また、地域全体で認知症の方を支えるコミュニティづくりを進めていきます。</p>